



おみたま暮らし
新成人が語る
新たな時代の

New Generation

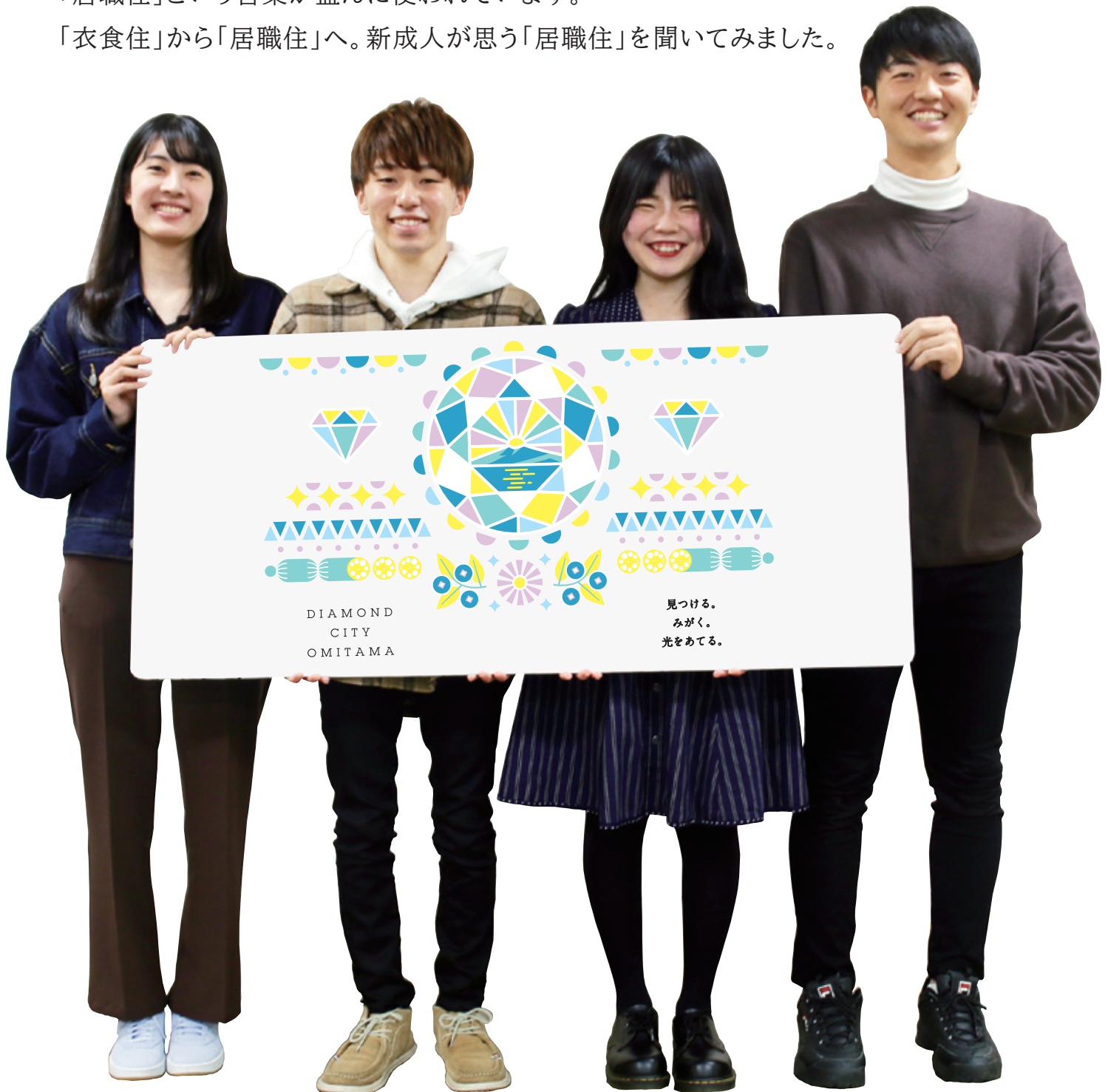
居職住

居:居場所、コミュニティ 職:仕事、働くこと 住:家、住む場所

近年、移住希望者にとって大切な3つの要素として

「居職住」という言葉が盛んに使われています。

「衣食住」から「居職住」へ。新成人が思う「居職住」を聞いてみました。



DIAMOND
CITY
OMITAMA

見つける。
みがく。
光をあてる。



令和2年度成人式実行委員会

(後列左から)植田巨亮さん、笹目心之介さん、井川 涼さん、谷田部雅生さん、本田浩二郎さん、石黒歩さん
 (中段左から)谷貝将太郎さん、八島由依さん、赤岡未奈美さん、千葉未夢さん、内田 魁さん、村山鷹矢さん、小沼大地さん
 (前列左から)田村葵乃さん、齋藤友里菜さん、斉藤夢宙さん、君山吏李圭さん、木名瀬咲希さん、菊池鈴音さん、井坂慎悟さん



田村 葵乃さん
小川北中出身

来年から保育士になります。地元から通えるところで探しました。都内は遊びに行くところ。都市的すぎず、田舎すぎない感じが小美玉のいいところだと思います。ダイヤモンドシティのロゴが可愛くていいですね。小美玉を有名にしたいです。



千葉 未夢さん
小川南中出身

都内の大学に地元から通っています。先日、小川のまちなかを歩いていて、改めていいところだなと思いました。都内に日帰りで行ける距離でありながら、程よく自然が残る小美玉に住み続けたいと思っています。おしゃれなカフェとか増えたら嬉しいです。



谷田部 雅生さん
美野里中出身

大学の都合で地元を離れていますが、小美玉に帰ってくると、早朝の空気が澄んでいることに気づかされます。野球を通して自分を育ててくれた、地域の人たちへの恩返しの意味を込めて、将来は地元で野球を教えたいです。



谷貝 将太郎さん
玉里中出身

小中学時代の友達が関東圏内に散らばっていますが、半年に一度は地元に戻ってきて集まり、お酒を飲んだり海に行ったりして遊んでいます。小美玉はご近所付き合いが残っているのがいいですね。声をかけてもらえるのが嬉しいです。

SNS連動企画

実行委員のメッセージを発信中！
 「わたし、おみたま(他の人に知らせたい、私を知る小美玉の魅力)」



わたしの「おみたま暮らし」

おみたまの暮らし体験談

小美玉市移住定住サイト「おみたま暮らし」

詳しくはこちら!

小美玉市への移住を経験したお二人が、それぞれの「おみたま暮らし」を語りました。記事全文はウェブサイトでご覧いただけます。



自然の中で子どもと遊ぶ休日



おみたま暮らし歴20年
相澤 博文さん

宮城県大崎市出身。大学卒業後、現在も勤める会社への就職を機に小美玉市へ。市内の機械部品メーカーで、試作品の製造を手掛ける。妻と4人の子どもたちの6人家族。



小美玉の景色は、田んぼが多い地元の風景と似ていて親近感がありました。市内には便利な駅前や市街地だけでなく、郊外の静かな場所、自然が多く景色を楽しめる場所など、環境が異なるエリアがありますよね。「会社に通いやすい場所がいい」という私と「落ち着いた住める場所がいい」という妻の希望を合わせ、玉里地区に自宅を構えました。

協力しています。子どもたちが自転車で乗れるようになったので、霞ヶ浦の堤防と一緒にサイクリングしたり、玉里地区の中を探検したりしています。子どもが生まれてから、趣味のモトクロスはバイク整備やレース観戦だけにして、走るのには控えていましたが、そろそろ再開できたらと思っています。子どもがバイクに興味を持ってくれたら、子ども用に調整して、一緒にコースに行きたいですね。

地域の子育て 今度は私が支えたい



玉里地区のご近所さんたちは、移り住んだ当初から、いつも気にかけてくれました。子どもが生まれてからは、幼児育児教室で同じ境遇のお母さんたちに出会って、仲良くなりました。子育てで大変な時期に助けてくれたのも、子育て中のお母さんたちでした。そのつながりで結成したのが、読み聞かせボランティア「おはなしテルテル」です。幼稚園や保育園、介護福祉施設などに訪

問し、読み聞かせ会を開催しています。自分の子育てが少し落ち着いてきましたが、これからもずっと子どもと関わる活動を続けたいです。今は共働きが多い時代なので、お母さんたちの大変さは私の頃以上かもしれません。公的な育児サポートに加えて、私たちの経験を生かした心のサポートもしていけたらと思っています。



おみたま暮らし歴22年
遠藤 康子さん

鳥取県米子市出身。自衛官の夫との結婚を機に小美玉市へ。夫と3人の子どもたち、トイプードルの6人家族。ママさん4人組の読み聞かせボランティア「おはなしテルテル」はライフワーク。



「住んでみたい」気持ちの種をまく 関係人口づくり

Interview

インタビュー



移住への関心が高まった コロナ禍

東京・有楽町のいばらき暮らしサポートセンターで、茨城へ移住を考えている方の相談にのったり、具体的なアドバイスをしたりする移住相談員をしています。

コロナ禍でテレワークが浸透し、移住への関心が高まっていて、県全体の相談件数が昨年の約2倍になりました。今の仕事をテレワークで続けながら、自然と触れ合える場所や広々とした家に住みたいという希望が増えています。

大切な「居・職・住」

移住先を選ぶ時の重要な要素に、「居（居場所やコミュニティ）・職（仕事・住（家）」があります。どれも生活の土台なので、希望者は慎重に自分に合う地域を探してい

ます。

「地域に溶け込んで、地域活動に貢献したい」という方は、移住する前に地域のお祭りやイベント、プロジェクトに関わりたいと考えています。何度も通ううちに知り合いが増え、そのつながりから家や仕事を決められたら、とても理想的。移住後のミスマッチが起きにくくなります。

人とのつながりが安心感に

地域に溶け込めるかは移住者の大きな不安の一つ。「茨城の人は親切な人が多いから、分らないことは声に出してみても」とアドバイスしています。困ったとき、近くに相談できる人がいると安心感があります。地域の皆さんも、初めは「どんな人なんだろう？」と不安かもしれません。お互いに声を掛けあって、みんなが参加しや

すい雰囲気を作ること、地域全体も活性化していくと思います。

移住が増える 可能性のあるまち

人口減少が進む中、いろんな地域と関係性を持つことはもっと注目されていくでしょう。小美玉市は、ウェブメディア「タウンジャーナル小美玉」設立、移住促進事業「イフデザインプロジェクト」、中央高校と連携した授業など、関係人口（※）づくりに積極的に取り組んでいますよね。何より市民の皆さんが率先してまちの魅力を発信しようという姿勢は、移住促進の観点からも素晴らしいと思います。

市外に住みながら小美玉に関わる人が増えることは、将来的な移住者が増える可能性を秘めています。これからも小美玉市の皆さんの先進的な取り組みに注目していきます。

いばらき暮らしサポートセンター
移住相談員

藤岡みのりさん

三重県出身。大学進学を機に茨城へ移り住み、常陸太田市の宿泊施設に就職。田舎暮らしに興味を持ち、日立市の中山間地域にある空き家を借りて住んだ経験を経て、移住先での地域の人との関わり方についてもアドバイスしている。



「まずは賃貸で暮らし、改めて家の購入を考える『2段階移住』を希望する方も増えています」と藤岡さん。

※関係人口とは、「地域外に住む人のうち、地域に関わろうとする、ある一定以上の意欲を持ち、地域に生きる人々の持続的な幸せに資する存在」のこと。

出典：『関係人口』創出で地域経済をうるおす シティプロモーション2.0』／河井孝仁著